

## 《電気自動車 EV スーパーセブンで東北被災地を巡る旅》

～EV スーパーセブン元気と電気を届ける旅～

### 実施のお知らせ

日本EVクラブでは、2018年5月17日～5月31日(予定)に、東北の被災地を電気自動車めぐり《電気自動車EVスーパーセブンで東北被災地を巡る旅》を行います。

EVスーパーセブンは、2013年日本EVクラブが製作した手作り(コンバージョン)EVです。2013年には、急速充電を行いながら日本を一周する「EVスーパーセブン急速充電の旅」を行いました。今回はその車両で、電気自動車が給電できること(電源として利用できること)を多くの人に知ってもらう旅を行います。

#### 【企画趣旨】

2011年3月11日の大地震によって大きな被害を受けた東北地方は、まだまだ復興が必要です。こうした被災地にEVスーパーセブンで元気(電気)を配達する旅を行います。

今回は充電ではなく**給電の旅**です。EV、PHVは電気の貯蔵庫であり、災害時に給電が可能です。このことを多くの人に知ってもらい、災害時にEV、PHVを役立てていただくことを願うものです。そのために、給電機能を実演するイベントを開催します。

#### 【経緯】

日本一周急速充電の旅の後に、EVスーパーセブンは電気系のトラブルで長く休眠していましたが、日本列島を襲う数々の災害を見るたびに、EV、PHV、FCVの機能を多くの人に知ってもらう必要性をひしひしと感じ、再び東北の被災地を訪れるべく、復活を決意しました。そして、2017年に半年に及ぶ悪戦苦闘の修理の結果、リボーンに成功しました。

今回の旅は、同じようにリボーンを果たそうとしている東北の被災地を、復活したEVスーパーセブンで旅をして元気を届けようと思います。また、この旅が給電機能認知の一助になればと思います。

#### 【概要】

1. 蘇ったEVスーパーセブンが東北大震災で被災した地域をめぐり、亡くなられた方を鎮魂します。
2. 被災地の復興の様子を取材、Facebook、WEB雑誌、既存メディア等で報告します。
3. EVフォーラムやREBORNミーティングを通じてEVやPHV、FCVの災害時の給電機能をアピールします。

以上をもってEV、PHV、FCVの普及を促進します。

### 【旅の概要】

・実施日時(予定) 2018年5月17日(木)~31日(木) 2週間

・実施車両 EVスーパーセブン、各社のEV、FCV、PHV、オーナーのEV、PHV

・EVスーパーセブンのドライバー 寄本好則/堤健一/舘内端/希望者

寄本好則：2013年EVスーパーセブンによる急速充電の旅のドライバー。

フリーライター

堤健一：東北大震災時にカーメーカーEVを被災地に運び、V2Hの必要性を実感。

元自動車メーカーEV開発者、株式会社LTE代表取締役

舘内端：日本EVクラブ代表、自動車評論家

・旅のルート

5月17日に東京をスタートし、千葉、茨城、福島、宮城、岩手を経由し青森県下北半島まで被災地を巡りながら走行します。およそ1,000kmの旅。

・鎮魂のライトアップ

旅の途中で被災者の冥福を祈るライトアップを行います。場所は適宜。給電機能を使って、EVスーパーセブンの電気を灯光器に給電し、夜空に一条の光を照射し被災者の魂を鎮魂すると同時に、EV、PHV、FCVの給電機能をアピールします。

・REBORNミーティングの開催 (5/22 仙台市を予定)

・EV、PHV、FCVと社会との新しいつながりのアピール

・災害時の電気エネルギー補給基地

・再生可能エネルギーの普及

等を、東北市民、EV、PHVオーナー、学識経験者と討議します。

・EVキャンプの実施

EVスーパーセブンを中心に、オーナーのEVや協賛メーカーのEV、PHV、FCVが多数集合し、被災地の復興を祈念するEVキャンプを行います。夜には、それらのEVやPHVの電力で灯光器を使ってライトアップし、被災者の魂を鎮魂します。

また、EV、PHV、FCVの電力で照明をつけたり、料理をしたり、情報機器や音響機器を使い、楽しいEVキャンプを行い、夜を徹して、CO2フリーの生活、エネルギーの地産地消、EVの動向等を話し合い、新しい自動車文化を提案します。

### ・ Drive with EV7 EVスーパーセブンと一緒に走ろう

EV、PHV、FCV のオーナーに声をかけ、好きな日、時間、距離を EV スーパーセブンと一緒に走ってもらい、旅の意義を共有してもらいます。

著名なモータージャーナリストに各メーカーの最新EV、PHVで伴走してもらい、EV、PHVをアピールします。一般の希望者は同乗試乗が楽しめます。

### ・取材と報告

各地で被災とその後の復興の状況取材し、ホームページ、Facebook等で報告します。

### 補遺

日本EVクラブは、震災から2年後の2013年にEVスーパーセブンで日本一周急速充電の旅を行いました。この旅はこの年の9月24日に経済産業省の中庭を出発し、はやる心を抑えて北海道をめぐり、EVスーパーセブン誕生の地の青森県八戸市に戻りました。そこから太平洋岸を南下し、津波の被災地を訪れ、被災の様子をレポートし、国民の皆様へ復興支援をお願いするもう一つの旅が始まりました。ちょうど、星野仙一監督率いる東北楽天ゴールデンイーグルスが東北の被災者に元気を届けるべく、初めての日本一をめざして必死に戦っている頃でした。

東北の旅の途中で、日産自動車のリーフ、三菱自動車のi-MiEVが被災者の救援に大変に役に立ったことを聞かされました。災害直後からしばらくの間、交通の途絶でGSへのガソリンの補給が間に合わず、ガソリン車が使えなかったところに、多数のリーフとi-MiEVが駆けつけ、救援センター間をつなぎ、救援物資の適切な配送が出来たことが、被災者を勇気づけたということでした。

そうした中で、被災者から「せっかく電気をもっているのだったら、それも使えるようにしてもらえませんか」という要望があったということです。EVの電池に蓄えられた大量の電気を走行だけ使うのではなく、給電できれば洗濯機、電気釜、扇風機などさまざまな家電が使える、TVも映り、情報が入手でき、夜も明るくなり安心して休めるというわけです。

給電は、被災者が感じるように大きな機能を持っていると思います。まさに災害列島日本にぴったりの機能だと感じました。そこで、この機能を広く知ってもらい、今後の災害時の救援活動に役立つ給電ネットワークを各地で形成できないものかと日本EVクラブでは考えています。

## 【旅程／イベントのご案内（予定）】

5月17日

お台場スタート 旭市 / 【宿泊】 潤沼自然公園キャンプ場（茨城県）

5月18日

北茨城市漁業歴史資料館よう・そろー / 【宿泊】 平潟港

5月19日

【イベント】 いいわき市観光物産センター いわき・ら・ら・ミュウ  
10:00～15:30 「給電カフェ」実施

【宿泊】 小名浜

5月20日

Jヴィレッジ / 広野町 / 【宿泊】 天神岬スポーツ公園

5月21日

フォーアールエナジー浪江工場「THE REBORN LIGHT」  
山元町立坂元中学校

【宿泊】 千年希望の丘（給電キャンプ／鎮魂ライトアップ）

5月22日

【イベント】 イオンモール名取（仮）  
10:00～15:00 「仙台フォーラム」実施（展示／トーク）

岩沼みんなの家 / 【宿泊】 名取

5月23日

東日本大震災メモリアル 南浜つなぐ館（石巻） / 万石の里女川本店（かまぼこ高政）  
【宿泊】 女川

5月24日

大川小学校跡地 / 南三陸町防災対策庁舎 / 南三陸さんさん商店街  
語り部プログラム / 【宿泊】 神割崎キャンプ場

5月25日

南町紫神社前商店街 / 気仙沼市内防潮堤など / 【宿泊】 一関

5月26日

東日本大震災追悼施設（陸前高田） / 奇跡の一本松 / 【宿泊】陸前高田

5月27日

恋し浜 ホタテデッキ / 三陸とれたて市場 / 【宿泊】こすもす公園（釜石市）

5月28日

大槌町復興まちづくり情報プラザ / 山田かき小屋 / 鎮魂と希望の鐘  
震災メモリアルパーク中の浜 / 【宿泊】宮古姉ヶ崎オートキャンプ場

5月29日

たろう観光ホテル / 震災遺構 明戸海岸防潮堤 / 机浜番屋群  
【宿泊】小袖海女センター駐車場

5月30日

ひろの水産会館 UNIQUE / たねいち産直ふれあい広場（はまなす亭） / 種差海岸  
蕪島 / 【宿泊】三沢オートキャンプ場

5月31日

道の駅 みさわ 斗南藩記念観光村など / 大間崎 / 【宿泊】大間

下記サイトもご参照ください。

EVスーパーセブン東北被災地を巡る旅／特設サイト

<http://evsuper7.strikingly.com>

EVスーパーセブン東北被災地を巡る旅／行程表

<https://kouteisan.com/travelguide/FiRWQ0M5e4AqwECjtRQ66GuR3lcjoFnA.html>

お問い合わせ先

一般社団法人日本EVクラブ事務局

担当：石川響子

TEL:03-5376-8446 FAX:03-5376-5310 [kyo@jevc.gr.jp](mailto:kyo@jevc.gr.jp)